

# 川畑八郎兄 告別式

2012年2月6日午後1時

式場：セレモニホール清水  
司式：大石 操兄  
奏楽：和田 悦子姉

前 奏

讃 美 新聖歌209「慈しみ深き」

聖書朗読 ヨハネの黙示録 7：9～17

祈 禱

説 教 「渴くことのない日々」 村上 定幸師

教会の祈り 堀場 昭司兄

讃 美 新聖歌510「主よ御許に」

報 告

頌 栄 新聖歌63「父 御子 御霊の」

祝 禱

飾 花

後 奏

あいさつ 遺族代表 鍛冶 ふみよ姉

讃 美 新聖歌508「神 共にいまして」

出 棺

**2時30分**

## 聖書 ヨハネの黙示録 7章9節～17節

新共同訳聖書 新約460ページ

この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、

大声でこう叫んだ。「救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである。」

また、天使たちは皆、玉座、長老たち、そして四つの生き物を囲んで立っていたが、玉座の前にひれ伏し、神を礼拝して、こう言った。「アーメン。賛美、栄光、知恵、感謝、誉れ、力、威力が、世々限りなくわたしたちの神にありますように、アーメン。」

すると、長老の一人がわたしに問いかけた。「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」

そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。

それゆえ、彼らは神の玉座の前において、昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、この者たちの上に幕屋を張る。

彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽も、どのような暑さも、彼らを襲うことはない。

玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとく、ぬぐわれるからである。」